

平成28年度第3回 名張市地域公共交通会議 地域連携部会 議事概要

日 時 平成29年2月22日（水）

午後1時30分より

場 所 名張市役所 403・404会議室

出席者：（敬称略）

（1）委員

氏 名	摘 要	備 考
会長が指名する者		
室谷 芳彦	はたっこ号（名張市地域公共交通会議委員）	部会長
我山 博章	ナッキー号 都市整備部長（名張市地域公共交通会議委員）	副部会長
田中 明子	地域環境部長（名張市地域公共交通会議委員）	
中平 恭之	近大高専（名張市地域公共交通会議委員）	
名張市地域公共交通会議が必要と認める者		
福本 房生	ほっとバス錦運営協議会	
滝川 晋	ほっとバス錦運営協議会	
福岡 勝義	薦原コミュニティバス運営委員会	
福田 富彦	薦原コミュニティバス運営委員会	
前川 尚三	緑が丘コミュニティバス運営協議会	
島田 光夫	美旗地域コミュニティバス運営審議会	
山嵯 和明	国津コミュニティバスあららぎ号運行協議会	

（2）事務局

都市整備部都市計画室3名

1. 開会

2. あいさつ

3. 議事概要

（1）コミュニティバスの事業評価について

事務局より資料に基づき説明

<質疑応答、意見等>

（質問）平成29年度の中にある利用促進イベントは、この部会として取組むことになるのか。また、これまで各地域のコミバスが取組んできた内容もあわせて評価していくこととなるのか。

（回答）交通会議全体の取組として示しているのので、この部会で取組むといった意味ではなく、従来通り利用促進イベント等は事業推進部会で実施する予定です。また、交通会議の取組に加えて各地域独自の取組についても、自己評価の対象に考えています。

（意見）この評価の目的は、欠点を見つけて改善する、良いところを見つけて伸ばすということで、事後評価のシートを作成していく中で改善点や良い点が明らかになってくる。

（質問）平成29年度からこうした評価などを各運行協議会でやって行こうということですが、例えば乗り込み調査のひな形など統一したものを用意していただけるのか。

（回答）乗り込み調査につきましては、地域公共交通網形成計画策定時に実施したノウハウもある。当時の調査内容をそのまま実施しても良いし、改めて調査項目をこの部会でご検討いただく事も

できる。調査の実施方法について、前回は事務局と近大高専の学生がバスに乗車する乗り込み調査で行ったが、そうしたやり方も含めて検討いただきたい。各地域、各路線の状況によってより有効な方法があるかと思うので、地域ごとにやり方は異なっても良いかと思うが、調査の項目は統一した内容でお願いしたいと考えている。より良い路線網にしていくためには、どの様な人が、どんな目的で、どこからどこまで利用している、また、利用したいと考えているなど、詳細なデータが必要だが、そうしたデータは日々の運行業務の中でドライバーが把握するのは難しいので、全てを運行事業者に依頼するのではなく、運行協議会が実施する調査やバス利用者自身に乗降場所や目的を自己申告していただくなど、そういった方法についても意見をいただきたいと考えている。

(意見) 利用人数の把握は当然のこと、乗降場所は重要なデータである。はたっこ号の場合は、ドライバーが固定されているので、顔見知りにもなりやすいし慣れもあって、バス停ごとに人数をドライバーが全てチェックして集計している。ただ、利用目的や乗り継ぎ先などを毎回ドライバーが聞き取ることは不可能である。まして、ドライバーが毎回変わるような路線では無理だと思う。そうしたこともあって、理想は地域の方々が交代で乗込んで、利用者と話をしながら簡単なチェック表で集計することが望ましいと思う。

(質問) 運行当初は、乗込み調査をしたこともありますが、今後は自分たちの運営を考えるだけではなく、この会議の取組として、決められた制度のひとつとしてやっていくということか。

(回答) 既に独自で実施していただいている調査も大切なので継続いただきたいが、この会議で全体のネットワークとして評価する際には、やはり共通の項目で評価、検証することが必要だと考えているので、統一した調査項目は設定していきたい。ただ、その調査方法は各地域、路線で取組みやすい手法を検討していただきたいと考えている。

(意見) この評価の目的としては、それぞれ運行いただいているコミバスの利用者の視点から、工夫、改善できる点があるのか無いのか、もう一つは、「どういった人がどこから乗ってどこへ行きたいのか。」を把握することである。道路整備の際にOD調査(起終点調査)を行います。同様に調査を行うことでそれぞれの路線においてもどこに停留所があれば便利になるのか、また全体のバスのつなぎ方として利用者の方々が使いやすい形が見えてくると思う。やり方としては、例えば乗り込み調査の際に調査票を配布させていただき次回乗車の時に回収箱に入れていただくといった手法も考えられる。

(質問) 乗込み調査について、実施回数などはどのように考えているのか。

(回答) 調査頻度として、今回の資料では、最低限、必ず年1回は行いたいと提案している。先ほどの例のように用紙配布、回収などであれば、バスに用紙などを設置しておけば毎日でもデータが取れるなど、手法によって回数やデータの集め方も変わってくると思う。

(意見) 各地域によって体質も違うので地域ごとに考えていくべきかと思う。月に1度、1週間かけて全便に交代で乗込むなどすれば、かなり詳細なデータを取ることができ、そのデータがあれば、路線、ダイヤ、バス停の位置などを検証し、利用者の増加に向けた見直しができる。まちづくり組織のメンバーにも広く協力を呼びかければ調査の実施も不可能ではないと思う。

(意見) それぞれ独自の調査内容では、そうした全体の検討にはつながらないので、一定のひな形を作っていたきたい。

(回答) 調査項目については、事務局としても提案させていただきますが、地域にあった手法があると思うので、どの様な方法が良いのか議論いただきたい。

(質問) これまで、各地域の皆様がどの様に管理されてきたのか分かりませんが、この表に記載できるのかどうか。

(回答) ほっとバス錦は可能です。

(回答) はたっこ号も可能です。

(質問) 少なくともこの利用人員の報告が、先ほどの説明にあった、減免に対する市からの補助金算定の基礎となるので、平成29年度の当初から必要になるということでしょうか。

(回答) 補助は平成29年4月分から対象で、支払いの方法、回数など詳細については検討中ですが、対象者の数については、4月から把握していただく必要がある。

(質問) 減免対象者など利用人員の把握は4月からとのことですが、この報告書を使用することなどは地域公共交通会議に報告や諮る必要はありますか。

(回答) 法令の規定によって定められたものではなく、本市の予算措置として、障害者等無料としていただいている分について一部補填をさせていただくものであるため、地域公共交通会議に諮る内容ではないと考える。

(質問) ほっとバス錦は統一運賃ではないので、対象者の数だけでなく、免除額の把握も必要か。

(回答) 数だけでは金額が分かりませんので、ほっとバス錦の場合は、手帳を提示された方の乗降場所まで把握していただく必要がある。

(意見) 一律運賃ではなくブロック単位で運賃が異なるので、手間はかかるがでできると思う。

(質問) この補助は、奈良県から乗った方も対象となるのか。

(回答) 運行に対する補助なので、利用者が宇陀市民であっても減免対象者であればこの補助の対象となる。名張市民が利用した場合のみを対象とするものではないので、はたっこ号においても伊賀市民の利用について、同様に補助の対象となる。今回提示した報告書はあくまでも運行を評価するための書式内容であるため、減免補助金については別途申請が必要となる。

(意見) この補助については、2月28日から始まる議会に提案させていただき予算案であるため、現時点ではまだ決定事項ではないが、予算案が否決されない限り平成29年度から実施することとなる。この補助金は、現在、定額300万で補助させていただいている運行補助とは違って実績に応じてお支払いすることになるので、減免することで本来なら入るはずの運賃がいくらであったのか把握して申請いただき、その2分の1を補助金としてお支払させていただくことを考えている。申請に関して乗降場所のデータまで必要ないが、減免額については明らかにさせていただき必要がある。

(意見) 障害者運賃免除の開始当初は、さほど多くなるとは想定していませんでしたが、付添人も免除となることから、実際には2割程度の利用者が減免となっている。

(意見) みどり号は三重交通に委託していますが、無料や減免の数は一切調べていない。運行協議会として年に1、2回は必ず乗り込み調査を実施しているが、そのデータから推測した数字でよいか。三重交通に頼んでも無理だと思うが。

(回答) 補助申請は実数で行いたいと考えているので、事務局としても三重交通と協議したいと考えている。

(意見) 三重交通の報告は、自主的に実施している乗り込み調査結果と違うこともあり、利用人数の把握も十分にできていない状況である。みどり号は障害者減免がほとんど無いのが現状である。1便に1人いれば多い方で、しかも減免の対象であっても、「みどり号の存続のために運賃を払います。」と支払ってくれる人もいる。

(意見) コモコモ号も同じような状況である。三重交通にお願いしても調べてくれない。

(意見) 運行事業者にお願いして理解いただければよいが、まずは安全運転が第一なので、過度に運転手に負担をかけて運転が疎かになり事故が発生することが一番こわいので、あまり無理強いをせず運転手の理解が得られないようであれば別の方法を検討いただきたいと思います。

(意見) みどり号は、路線バスから乗り入れて、みどり号として運行し、その車両がそのまま路線バスとして運行するので、運賃箱に入っている金額からみどり号の利用者数を把握することもでき

ない。また、運転手もその都度代わるので難しい。

(回答) 当然、運行の妨げになるようなお願いはできないが、一度、三重交通にお話しさせていただく。支出方法や計算方法などは検討する余地はあるので、実数を把握することが現実として不可能であるなら別の手法も検討していかねばならないし、そもそもこの補助に関してだけではなく、網全体の検証を行なうためにも実数把握は必要なので、まずは三重交通と協議をさせていただき、安全な運行に差し支えない範囲でどこまで協力いただけるか、また事業者だけではなく地域としてどこまでやっていただけるか検討いただきたい。

(質問) 定期的な乗り込み調査はしているのですが、その結果から推測した数でよいか。

(回答) 実数を把握していただきたい。三重交通は有料の数は把握しているのですが、あとは減免者の数を把握していただければよい。

(質問) この報告書はいつから使用しますか。

(回答) 今回の報告書は、様式が変わるだけで、従来からご報告いただいている内容とさほど変わりませんので作成に無理はないと考えている。4月分の報告から、この様式でお願いしたいと考えている。

(意見) 事業評価のサイクルについて、平成29年度から、30年度と評価されますが、評価で止まってしまっているが、せつかく単年度評価を行っているのですが、その評価結果を地域に持ち帰って、改善、実行していただいた結果をまた報告していただき、その評価や助言をいただくといったサイクルを示していただければと思う。また、資料2の事業評価シートの内容として1枚目で利用者数を毎年度把握し、2枚目で評価項目として前年度実績を上回ることを目標に示されていますが、ひとつのやり方として、取組期間を3年、5年単位である目標値を立てていただいて、その目標値に向かって取り組むと、結果、達成できなかったからだめだというのではなく、未達成となった原因を検討し、場合によっては今の運行を抜本的に見直していくような機会を設けるといのもひとつの手法かと思う。

(回答) ご指摘いただいたPDCAサイクルの件については、資料2の2ページに、この会議での評価、指摘事項など記載する欄を設け、また次年度にこのシートを記載する際にはその評価、指摘事項に対してどのように対応したかなど記載する欄を設けたいと思う。また、2点目のご指摘に関しましても、公共交通網形成計画においてコミバス利用者現状の2.1万人に対して計画期間平成32年度には2.5万人まで増やしたいといった全体目標を掲げているので、そうした長期的な目標値についても資料2の1枚目に表示するようにしたいと思う。

(意見) 満足度と言っても、何に対する満足度かわからない。また、乗継利用者の割合もなかなか把握しづらいと思う。こうしたことは、大々的なアンケート調査などで把握することも可能かと思うが、毎年やろうと思えばかなりの予算や事務も必要になる。また、ODを把握したいとの話もあったが、利用者のODだけではなく、利用していない人の「本当はこうした目的でここに行きたい」ということが把握できなければ新たな利用者の増加にはつながりにくいのではないかと考える。利用者のニーズ把握によってより利用しやすくなり、結果、利用者が増えていくこともあるが、利用していない、また、今後利用したいと考えている方々の理想ODが把握できればよいが、それもかなりの予算等が必要になることが見込まれるので、どの程度まで把握していくのか見据えておく必要がある。

(回答) 今回のシートでの提案内容は、そうした予算的なことも配慮して、最低限年1回は乗込み調査によって利用者のニーズを把握し、一方、現在運行していない地域や新たなニーズの把握については、もう一つの部会である事業推進部会において検討いただいております、それが地域懇談会やワークショップなど、どのような形になるのかは未定であるが、そうした取組で把握したニーズをこの部会に報告させていただければと考えている。

- (意見) みどり号でも乗り込み調査の以外にも全戸配布のアンケート調査を毎年行っているが、それぞれの結果はかなり食い違いがある。利用者は本当に必要だから乗ってくれているが、利用されていない方々はいい加減な回答をしがちである。そうした意味でも利用していない人の調査は非常に難しいと思う。アンケートを全戸配布しても2割の回答があれば良い方で、無関心の人が8割いる。そうした人たちをいかにして取り込んでいくかが大きな課題であり、でもそれができないと運行の継続も困難になる。また、まち全体が活性化しないと、コミバスだけが活性化することは無いと思う。そういったことも考えていかなければと、いくらバスの評価をしても無駄な取組になってしまうと思う。
- (意見) 減免した分の補助金をいただけるのはありがたいが、もうひとつは国のフィーダー系統補助金も認定してもらえれば地域としてもありがたい。そういった面では、名張市は出遅れているのではないかと思う。
- (意見) 国としても支援をする仕組みはあるが、ただ要件が色々あり、名張市からも相談を受けてはいるが、現状の取組の中では補助金の要件に合うような運行の見直しにはあたりませんので、現在は支援をさせていただけていない状況となっている。ただ、補助金をもらうために、要件に合わせるよう無理な見直しをするというのはどうかと考えている。基本的には運行がまずあって、必要な見直しの内容が要件にあっていれば支援をさせていただくものであるのもので、もう少し大きく見直して要件に合うようにしたいとの相談もあるが、あえて補助金をもらうがために必要以上に大きく見直したように見せて要件を満たして補助を得るような例も全国的には散見されるようですが、それは本来の見直しではないと考えている。もちろん国としても支援をさせていただきたいと考えているが、全国的にたくさんの要望がある中で、予算も限られていることから支援する対象も絞っているといった現状もご理解いただきたい。
- (質問) 昨年、蔵持小学校で児童を対象にバスの乗り方教室を無料で実施いただき大変好評であったが、今年も名張市内でやっていただけるのか。
- (回答) 昨年の取組は、三重県のバス協会の予算を使って実施した。バス協会も年間予算の中、多数の市町から要望をいただいているようなので、早いうちに事務局を通じてバス協会にご相談いただければと思う。
- (意見) 乗り方だけなら、バス協会でもなくとも三重交通にお願いすればやってもらえると思う。
- (意見) 先般は、運輸支局の職員も来ていただき、バス環境など児童にも分かりやすく説明もしていただき好評だった。授業の一環として教室での座学から始まり、現金やICカードを使っての乗車体験や普段は見ることのできない整備工場の中まで案内していただき、児童も喜んでいて。最近の子供は、自家用車ばかりで初めてバスに乗ったという子が多かったが、こういった体験を通じて児童をバスのファンにしていけば、中学、高校、大学、社会人と成長していく中で、長い目で見れば将来の利用者になってもらえると思う。
- (意見) 検討していただけるのであれば、児童だけでなく高齢者向けの乗り方教室についてもお願いしたと考えている。今年の3月から道路交通法の改正があり、認知症に対する対策が強化され、免許更新時に認知症などのチェック項目が増えるなど、高齢者の免許更新が厳しくなる。そろそろ運転をやめようとした時に、免許返納していきなりバスに乗れるものではないと思うので、免許返納する前に「バスはこんな感じで乗れるんだ」と体験することで、免許返納を促す効果もあるのではないかと考えられる。今は免許をお持ちの高齢者の方々も、将来の利用者となりうると思うので是非とも検討いただきたい。
- (質問) バス利用者のほとんどが高齢の女性なので、男性をターゲットに高齢者向けのバスの乗り方教室を是非ともやっていきたいと思うが、これもバス協会に提案すれば良いのか。
- (回答) 昨年の乗り方教室やお絵かきバスのイベントについては、バス協会に急なお願いをさせていた

だいたいが、平成29年度につきましては、そうしたイベント費用も当初予算要求しているもので、そういった取組の予算は確保できる見込みである。事務局としては、将来に向けての子供を対象とした取組も重要であるが、昨今の状況を鑑みて高齢者を対象とした教室も必要であると考えている。

(まとめ) 公共交通の確保、維持がいかに重要な問題であるかという認識を深めた実のある会議になったと思う。運行協議会としても、世代交代をしていく必要があり地域づくりも同じであるが、今のうちに継続性のある組織や仕組みをしっかりと作っておく必要があると考えている。この地域連携部会も実際に運行協議会の皆様に参加いただいているので、情報共有をはじめとして各路線の乗継拠点整備や乗継利便性の確保、また、乗継時の切符の共有化など、大きなコンセプトを持った連携を図っていきたいと考えている。

#### 4. その他

次回会議は地域役員の交代等もあり、5月の地域総会が終わった時期に開催する。